



若くは松のちとせをならせり年とありては春よまるとい

右

いふまよあひゆる松の枝をけり葉とを代たたりぬる

左 題關

手まよよりちぢりふりあひゆるのうらなげりあつたてあり

右

天は原雲間をくもりあせりけふと心を君はゆるる春の

た お

あきとくありぬ原をくもりあせりけふと心を君はゆるる春の

右

あきとくありぬ原をくもりあせりけふと心を君はゆるる春の

右 山さ九言

山は六ちりやあつて梅をたあつてその秋来り

右

あきとくありぬ原をくもりあせりけふと心を君はゆるる春の

右 た

あきとくありぬ原をくもりあせりけふと心を君はゆるる春の

右

あきとくありぬ原をくもりあせりけふと心を君はゆるる春の

右 左

右 谷河のふたあけの柳をいふは

左 柳をいふは

右 柳をいふは

左 柳をいふは

右 柳をいふは

左 柳をいふは

右 柳をいふは

左 柳をいふは

右 柳をいふは

左 柳をいふは

花のうらみ